

めざす児童生徒像

- ・自ら考え、判断し、行動する子
- ・広い心で人を思いやり、認め合って協力する子
- ・よりよいものを創り出すために挑戦する子

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			※差	数値・アンケート結果 (%)			※差		
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
(学校重点項目)	レジリエンスの育成	各項目で+90%以上	① 自分で考え、判断して行動することができる	68.4	83.8		78.9	88.4		・児童生徒…①・②においては肯定的回答が1学期よりも10ポイント上回った。授業や学校行事等において前向きに取り組もうとしてきたことが伺える。 ・教員…④は大きくポイントダウンしてはいるが、学校保健会での講演を聞いて、同じような声かけができてはなかったとの自省が働いたと思われる。 ※後期課程生徒のみ別に行ったレジリエンスアンケートでは、「自分の感情を出す」ことを苦手としている生徒が4割もいることが分かった。	・学校行事のみならず、授業においても子供が主体となり考えて共創することで自信がつく、というサイクルをさらに回していく。 ・「自分自身」についてよく知る機会を設ける。自分の良さを認め、周りの個性も大切にできるような取り組みを児童生徒自身に考えさせ、さらなる集団の向上を図っていく。		
			② 広い心で人を思いやり、認め合って協力できる	89.4	80.3		78.9	89.0					
			③ よりよいものを創り出すために挑戦できる	78.9	77.5		84.2	82.6					
			④ レジリエンスの育成を意識した声かけや取組ができた	94.8			84.2						
			集計										
石川県共通重点項目	業務の改善	①・②がいずれも80%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	68.5			73.7			・①…肯定的回答は微増にとどまった。 ・②…肯定的回答は20ポイントも増え、目標値を超えた。積極的に学校運営に参画している教職員が増えたと思われる。	・教職員からアイデアを募るなどして、校内業務の効率化をさらに進めていく。(3月中) ・今後も、この学校で教職員がやりがいを感じながら仕事をするように、合意形成を大切にしたい組織を作っていく。		
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができています。	73.7			94.7						
小松市共通重点項目	学校研究	①②の平均が中間…85%以上 年度末…90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	88.9			94.7			・肯定的回答が90%以上となった。校内研修会などで、共有したことが有効に働いたと考えられる。 ・日常的な授業の相互参観により、職員一人一人の意識も高まり、授業にも研究主題を意識して取り組めたと考えられる。	・次年度への進級を視野に入れ、授業づくり宣言で授業改善に取り組んでいく。		
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	90.9			94.7						
			集計										
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	⑤の教員及び児童生徒の割合が中間…85%以上 期末…90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	94.7	79.8	-14.9	84.2	84.9	0.7	・児童生徒の肯定的回答が、①～⑤の全てで1学期を上回った。研究部を中心に推進した主体的・協働的な学びに向けての取り組みが効果的だったと考えられる。 ・教員の肯定的回答が①⑤で下がっている。授業研究の機会を増やしたことで目標が明確になり、教員の自己評価が厳密になったと考えられる。 ・ICT活用についての肯定的回答が教員、児童生徒ともに向上している。個別最適な学びを模索して積極的にICT活用に取り組んでいることがうかがえる。	・③④で教員と児童生徒の回答に乖離がある。3学期に実施の「授業づくり宣言」の視点にあげた「見取り」の重要性を再度周知し、教員が児童生徒一人ひとりの成長と課題を適切に見取るようにする。 ・主体的・協働的な学びの力も系統的につけていく必要があることを校内研修で伝え、9年間を通じた指導を再認識できるようにする。	
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	84.2	80.9	-3.3	84.2	86.0	1.8			
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	63.2	78.0	14.8	68.4	82.0	13.6			
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	73.7	75.7	2.0	73.7	87.2	13.5			
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	84.2	82.1	-2.1	78.9	86.6	7.7			
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	73.6	84.4	10.8	89.5	90.7	1.2			
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	③を70%以上 ⑤を80%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	83.3			89.5			・①～⑤の全てで肯定的回答が1学期を上回り、⑤は90%を超えた。粘り強い呼びかけと職員の見通しにより、教科横断的な視点での授業設計が進んできたことが伺える。 ・来年度に向け、カリキュラムマップの中に、今年度の実践を追記する。(3月中)		
② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。				88.9			89.5						
③ 全職員に「実施状況の検証」及び「成果の検証」の方法や内容、時期について周知し、計画的に検証を実行している。				77.8			84.2						
④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)				88.9			94.7						
⑤ カリキュラムマップを確認し、教科横断的な視点を示した授業を行っている。				88.9			94.7						
集計													
家庭学習	①中間 教員・児童生徒80%以上 期末 教員・児童生徒85%以上 ②中間・期末 教員・児童生徒80%以上 ③中間・期末 教員・児童生徒80%以上/保護者70%以上	① 児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。	84.2	72.4	-11.8	94.7	78.3	-16.4	・①②③教員…肯定的回答が増え、目標値を超えた。取組が浸透してきた。 ・②児童生徒…1学期より下がった。前期課程は肯定的回答が90%であったが、後期課程は50%であった。前期と後期の差が大きい。 ・③児童生徒…1学期より肯定的回答が増えたが、目標値には届かなかった。				
		② 児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。	84.2	77.1	-7.1	89.5	75.4	-14.1					
		③ 自分の課題に応じた家庭学習に主体的に取り組んでいる。	77.8	72.3	-5.5	84.2	74.2	-10.0					
集計													